

○少子化が進む中で、これからの「望ましい学校の姿」とは

1. 一人ひとりに居場所があり、多様な人間関係の中で社会性や自立的な生活態度、主体的に判断する力を育む学校。

○いろいろな価値観を持ち多様性のある白馬の子どもたち。海外の子どもたちも。

○前向きで素直。少人数の中で、皆で協力して学び合う。

○皆の顔と名前が分かり合える濃い関係性。大人になっても繋がっているよさ。

△同じメンバーの中で育ち平和だが、固定的・同調的な考えや人間関係が慣れ合いになりがち。

△人と関わるのが苦手な子や、コミュニケーションのとれない子の存在。

2. 学習環境を整え一人ひとりに行き届いた指導を行うとともに、子どもたちの教育と学力向上に向けて指導力と専門性を発揮できる学校。

○学校では、対話しながら主体的に深く学ぶための授業の推進をめざしている。

○ICT 環境の整備と、共同的学习や個別化の学習など学習方法の工夫を進めている。

○少人数で、学校全体で動けるよさ。また支援の必要な児童生徒に対して、個に応じたきめ細かな指導がし易い。

△少人数だと、いろいろな意見を聞きながら自分の考えを深めることが難しい。

△30人だとやや多い。20人くらいが目が行き届き易い。しかし、10人では、多様な意見が出ず、なびいてしまいがち。ある程度の人数は必要。

△専科など対応する教員がいないと、よい学習環境が整いにくい。

3. 地域に学び、地域とともに歩み、子どもたちが誇りを持てる学校。

○白馬村の豊かな自然、文化、歴史、伝統を学び、少人数でも白馬村で最高の教育を受けたと、子どもたちにプライドを持たせる方向性を。

○白馬村にしかない地域力がある。地域の協力により、コロナ禍でも全国に先駆けたオンライン授業や様々な学習・行事が実施できた。

○保護者・地域の方々が協力的で温かい。

○地域や保護者・住民、行政が一体となり、子どもたち一人ひとりを伸ばしたい。

△学校行事は、それなりの人数がいないとやりづらい。地域と密着していくなどの工夫が大事。

△地域の祭りや行事、伝統文化を守ることが難しい状況になってきている。

△少子化が進むと、PTA の負担も大きくなってくる。

4. 学校施設の整備など、より魅力的で快適な教育環境を提供できる学校

△老朽化が激しい施設設備を何とかしたい。一番気になること。

△とげや擦り傷も。児童生徒が安全で快適に過ごせる場。